

第2章 中間評価の概要

平成 17 年度に行った中間評価は、後期 5 年間の活動の充実と設定した目標の達成を目的として、「栄養・食生活の改善」「運動・身体活動の習慣化」「休養・こころの健康づくり」「たばこ対策の推進」「健康診査・事後指導の充実」「歯と口の健康づくり」「アルコール対策」の 7 分野について、分野ごとに

- ① 設定した目標の達成状況の把握（達成度評価）
- ② 前期 5 年間の活動状況の把握（活動状況評価）

を総合評価することにより、課題の抽出及び今後の取組方向をとりまとめました。

2.1 各分野における目標達成度と活動状況の評価

2.1.1 栄養・食生活の改善

① 達成度評価

- ◆ 「1 日当たりの食塩摂取量の減少（成人）」「カルシウムに富む食品の 1 日当たりの摂取量の増加（成人）」については改善がみられましたが、「1 日当たりの野菜摂取量の増加（成人）」「脂肪エネルギー比率の減少（20 から 40 歳代）」については、改善がみられませんでした。
- ◆ 「健康づくりに協力する飲食店等の増加」は、急カーブで上昇しています。

② 活動状況評価

- ◆ 食育推進強化月間（8 月）における関係団体が連携した集中的な取組や、スーパー・外食・コンビニエンスストアにおけるヘルシーメニューの普及など、先駆的な取組が数多く実施されていました。
- ◆ ほとんどの小学校において食育の取組が実施され、新たな教材の活用や学校の実状に応じた指導方法の工夫が図られていました。

2.1.2 運動・身体活動の習慣化

① 達成度評価

- ◆ 「日ごろから日常生活の中で意識的に身体を動かすなどの運動を心掛けている人」は増加しましたが、「定期的な運動習慣者」、「日常生活における歩数」は減少傾向にあり、身体活動量全体としては改善していないと考えられました。

② 活動状況評価

- ◆ 一般府民向けの啓発事業が数多く実施されていましたが、今後の課題として、関係団体の一層の連携強化が求められました。

2.1.3 休養・こころの健康づくり

① 達成度評価

- ◆ 「睡眠による休養を十分に取れていない人」「睡眠の確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことのある人」「ストレスを感じた人」は増加傾向にありました。
- ◆ 「自殺者数」については策定時値と比べ、約 300 人の減少が認められました。

② 活動状況評価

- ◆ 一般府民向けの啓発事業は数多く実施されていましたが、職場における取組が少なく、充実が求められました。
- ◆ ストレスへの適切な対処方法の普及が必要であると考えられました。

2.1.4 たばこ対策の推進

① 達成度評価

- ◆ 「喫煙率の減少」「喫煙が及ぼす健康影響等についての十分な知識の普及」については改善傾向が見られました。
- ◆ 「分煙・禁煙化の推進」については、特に病院で大幅な改善が認められましたが、「禁煙支援プログラムの提供」については、改善の余地がありました。

② 活動状況評価

- ◆ 指導者養成、一般府民向け啓発、環境整備などバランスのとれた取組が実施されていました。
- ◆ 環境整備の情報公開など他分野にはない独自の取組が実施されていました。
- ◆ 禁煙・分煙環境の拡大と禁煙指導への誘導が必要であると考えられました。

2.1.5 健康診査・事後指導の充実

① 達成度評価

- ◆ 「がん検診受診率の向上」については、中間評価における調査の回答率が低いため、実態よりも高く評価されていると推測されるにもかかわらず、「胃がん検診」「子宮頸がん検診」「乳がん検診」の受診率はほとんど変化がありませんでした。また、「大腸がん検診」については高くなっていましたが、目

標値とはなお 7.6 ポイントの差がありました。

- ◆ 個別健康教育において、「高血圧」については実施市町村数に変化がなく、「脂質異常症」「喫煙者」については増加傾向にあるものの、実施率は低い状況でした。

② 活動状況評価

- ◆ 各種健診と保健指導等が実施されていましたが、がん検診の受診率向上に向けた一層の取組が求められました。
- ◆ 重要性が新たに指摘されているメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の概念を導入した啓発が必要であると考えられました。

2.1.6 歯と口の健康づくり

① 達成度評価

- ◆ 「80歳で20本以上の歯を有する人」の割合は増加、「60歳で24本以上の歯を有する人」の割合は現状維持でした。
- ◆ 「40～44歳、50～54歳での進行した歯周炎にかかっている人の割合」は40歳代ではほとんど改善はみられませんでした。50歳代は改善傾向にあると思われました。

② 活動状況評価

- ◆ 指導者養成、一般府民向け啓発、環境整備などの取組が数多く実施されていましたが、関係団体間のさらなる連携強化が求められました。
- ◆ QOLの向上のため、歯科疾患予防から口腔機能の維持向上へと活動の充実を図る必要があると考えられました。

2.1.7 アルコール対策

① 達成度評価

- ◆ 「多量飲酒者」の割合は、中間評価における調査の回答率が低いため、実態よりも高く評価されていると推測されるにもかかわらず、策定時値とほとんど変化がありませんでした。また、「毎日飲む者」の割合は男性では減少傾向、女性では増加傾向にありました。

② 活動状況評価

- ◆ 一般府民向け啓発や学校教育における各種の取組が実施されていましたが、近年、企業等の活動が増加しており、連携した取組が必要であると考えられました。